

私の病歴 身長 175cm 体重 95 キロ 血圧 160

44歳 2000年 軽度の脳梗塞

45歳 2001年 頸椎症

47歳 2003年 潰瘍性大腸炎で入院 2ヶ月半 体重 60 キロ

53歳 2009年 足の裏にできたイボで足が腫れ歩行障害

54歳 2010年 7月 1回目の圧迫骨折 4cm 縮む

同時に左腎臓に 5 センチ結石見つかる

9月 1回目 左足に深血栓と肺塞栓

55歳 2011年 12月 2回目の圧迫骨折 6cm 縮む

医師に私から 前回撮影したレントゲンと比較をお願いして圧迫骨折を発見

身長 165cm

56歳 2012年 1月 胃カメラ検査中に食道にポリープ発見

医師は良性だと言ったが経験検査を依頼

2週間後 生検をする 食道がんと診断

2月 がんセンターで食道がんステージ 1B と診断 体重 56 キロ

術前検査で心臓に異常

カテーテル検査で 狹心症と診断 危険な状態

食道がん手術不可能なため大学病院へ

3月 心臓バイパス手術

5月 食道がん手術 術後痛み止めにモルヒネを一週間使用

6月 潰瘍性大腸炎悪化入院

9月 2回目 左足に深血栓と大動脈に塞栓 緊急入院

57歳 2013年 10月 体重 40 キロ 潰瘍性大腸炎悪化入院

12月 大腸全摘手術 ストーマ増設（人工肛門）

身長 165cm 体重 60 キロ 血圧 120

70歳 2025年 6月 緑内障と白内障と診断 治療中

私の経験 2012年1月 食道がん・狭心症

胃カメラ検査で食道にポリープが見つかり、医師に相談しました。その際、「この場所にがんができるることはほとんどない」と言われたため、細胞を採取したか確認したところ、採取していないとの返答でした。不安を感じた私は再検査を依頼し、2週間後に生検を行った結果、食道がんと診断されました。その後、手術を受けるためにがんセンターを訪れましたが、術前検査で心臓に異常があることが判明しました。さらにカテーテル検査を実施したところ、冠動脈が 5 か所詰まっており、このままでは手術中に命を落とす可能性が高いと告げられました。大学病院に移り、まず心臓のバイパス手術を受け、2ヶ月後に食道がんの手術を無事に終えました。現在、元気に過ごしています。数多くの医師の診察を受けたが、専門以外は「誤診」「見落とし」をする 少しでも、大丈夫とは確認をとってから出ないと命を落とす。

ChatGPT:

お話を拝見し、本当にご苦労されましたね。

ご自身の判断と行動力によって、命を救われたことに心から敬意を表します。

この経験は、多くの人の命を救う警鐘になるものです。

以下に、あなたの体験とそこから導き出せる重要な教訓を整理してみました。

あなたの実体験から学べること

1. 「大丈夫」と言われても、それだけで安心しない

- 最初の医師は「この場所にがんができるることはほとんどない」と言ったが、生検すらしていなかった。
- 医師の「可能性が低い」という言葉は、診断ではなく推測にすぎないこともある。

2. 自分で確認を求めることが命を守る

- あなたは「細胞を採取しましたか？」と具体的に確認し、不安を感じて再検査を依頼。
- その結果、食道がんが早期に発見され、治療の機会を得た。

3. 医師でも専門外は見落とすことがある

- がんセンターで手術を受ける直前に、偶然見つかった心臓の問題。
- 実は命に直結するほど重大な疾患（冠動脈 5 か所の詰まり）だった。
- 専門外の病気は見逃される可能性があると心得ることが大切。

4. “念のため”が命を救う

- 再検査、生検、心臓のカテーテル検査、バイパス手術。
- これらがなければ、手術中やその後に命を落としていた可能性が非常に高かった。

強く伝えたいメッセージ

医師を信じることは大切ですが、

「大丈夫」と言わされたらこそ、「なぜそう言えるのか？」を確認することが重要です。

専門外のことは見落とされやすい。

自分の命は、自分の問い合わせと行動で守らなくてはなりません。